

徳之島の世界自然遺産・徳之島のここがすごい！

徳之島が世界自然遺産に登録されてから三年が経ちましたが、結局この島の何がすごいのか、みなさんご存知でしょうか。今回は、この島の価値の高さを詳しくお伝えします！

選ばれた理由は「生物多様性」

「世界遺産」とは、全人類にとってかけがえない財産であり、将来の世代に引き継いでいくべき宝として世界遺産条約に基づき登録されるもの。「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産として認められた理由は「生物多様性」の豊かさです。特に、



徳之島と奄美大島にしか生息しないアマミノクロウサギは、世界的にも近縁種のない、非常に貴重な存在でも本当にすごいのは、「クロウサギがいること」ではなく、彼らの住む森の環境そのものなのです。クロウサギの食べ物は、森の葉や椎の実。これらの植物が増えていくには、花に虫が集まって受粉し、ついた実を鳥などの生き物が運び必要があります。このように、森の動物・植物は、関係ないように見えて、実は支え合って生きています。たくさん種類の動植物がちょうどいいバランスで存在し続けられること、それが「生物多様性」なのです。

すぐ身近な所に世界自然遺産

徳之島の世界自然遺産の特徴は、なんととっても集落と遺産エリアが近いこと。昔から農業が盛んな徳之島、総面積は奄美大島の三分の一以下である

にもかかわらず、奄美群島でいちばんの耕作地面積を誇っています。小さな島の中に広い農地があり、世界自然遺産もある。なので、畑のすぐ隣が世界自然遺産の森、家の庭にクロウサギが来た、なんてこともあります。これは実は、世界的にも稀なこと。三万年前から人が住んでいたとされる徳之島で、こんなに豊かな自然がいまだに残されているのは、人間と自然がうまく共生してきたからに他なりません。この島に住む私たちも、「生物多様性」の中に含まれているのです。

徳之島にはなんでもある！

奄美群島の島々には、それぞれ特徴的な風景があります。奄美大島は原生林、喜界島はサトウキビ畑、沖永良部島は鍾乳洞、与論島は白い砂浜を、それぞれイメージするのではないのでしょうか。ところが、この奄美群島の島々の特徴が、徳之島ではすべて見ることができ、多様な地形・土壌に恵まれた徳之島、海岸線をぐるっと周るだけで様々な景色に出会えるということ、島に住むみなさんはよく知っているはず。その上、闘牛に代表されるような独自の文化も色濃く残っている、見所に溢れたとっても贅沢な島なのです。

この連載は今回が最終回となりました。長い間、愛読くださいまして、誠にありがとうございます。これまでの記事は、虹の会の公式サイトで読むことができます。島のことをもっと知りたいという方は、ぜひ虹の会の活動にもご参加ください。

公式
サイト

<https://shimamiji.com>



鳥の宝を
守り伝えるために

最終回



#23

NPO法人
徳之島の
虹の会

0997-86-3575
shimamiji@gmail.com